

**HEUSCHMID**

**TUNED MODEL  
ROAD  
IMPRESSION**

**HS 3 turbo**

スウェーデン製のサーブ900 ターボを西ドイツのホイシユミットがチューニングした。西ドイツ、スウェーデンの合作車は高いレベルで飽和し、ストリートカーのポテンシャルをさらに引き延ばしている。ターボカーの特徴をいかしたその手芸は、誰にでも速く走らせられるクルマに仕上げ、しかもセダンのもち味である乗り心地の良さをも共存させているのである。

**素性豊かなサーブ900  
ターボに本格的ストリ  
ート・チューンを施す**

**H E U S C H M I D**  
**SAAB HS3 TURBO**

WHIZZMAN



フルブレストが得た快脚では素晴らしい加速を見せてくれる。1速よりもむしろ高速道路における3速の時の加速が心地よいものである。0-100km/hは3.9秒

**ベースに800ターボをチョイスしたHSSは足回り、駆力にも手を加えたモデル**

スウェーデンを代表する自動車メーカー、サーブ社は、また航空機メーカーとしても有名である。そのジェット機技術は航空機でも非常に高いレベルにあり、無敵ターボチャージャーなどの技術も早くから完成されていた。16バルブ・インカムターボというほぼ完璧な高性能エンジンをもトアサールンに搭載したのもまたサーブ社である。

こうして見ると、サーブというメーカーはスポーツイメージがもたらしく走り出されていく良いのではなにかと思ふ。ところが現実には、厳しい自然環境が生み出した「安全、丈夫」という方が強くイメージされてしまふ。世界に数あるメーカー各社が、DOHC16バルブという素材に目を付けなかったのもまた意外なエピソードかもしれない。

だがやはり世界はほかの、西側のメーカーがサーブのボクシングシャシを真似たのである。その名は、ホイシユミット・チューニング。南ドイツのアルプ地方に本社を構えるこのメーカーは、90年代後半までヨーロッパに



力を注いでいる本拠地である。

アルプ地方といえば、アルピナが本社を置いており、ほかにホルシユチューニングで有名なルーフ、アウディ/ゴルフで有名なアプト、そしてバイクをチューニングしているクラウザーなど、メーカーが活躍する。オーナーであるコハン・ホイシユミット氏のビジネスはサーブのディストリビューターであった。メカニック出身であった彼は自分の親戚としてサーブを、近くのチューナーが行なっているようなハイパフォーマンスカーに仕上げようとした。

たのは当然だが、たのしみも知れない。いざにして、トータル・ボクシング・ヤルアップが大きなアクターを占めるストリート・パフォーマンスの場合、極めて安全な、しかもDOHC16バルブターボを搭載するサーブというのは絶好の素材であることは間違いない。現在、西ドイツ本国で販売されているホイシユミットはパフォーマンスある。そのベースはタイプ99から1990まで、中心は1990ターボ。今頃はHSSはそのなかでも最もベリシユックなホイシユミットである。

**トータルバランスの取れたHSSは日本でも受け入れられる要素が十分にある。**

今回試乗に提供されたHSSは、3.0SOHCターボをベースにしてホイシユミット日本総代理店がキックを組み上げたモデル。バルブ、カムプロファイルの変更、ウエストゲートチューン、プロダクション・アートのスペシャルス、コニ製のダンパー、スタビライザー、マフラーなどが知られる。最高出力は170馬力であるが、トータル



実際に試乗されているHSSは、ステアリングとブレーキのコントロールが、このコントロールによって運転はよりよくなる。ステアリングによるコーナーの視界の不具合はないが、コンパウンドに磨き付けられるシートはなかった。

